

# WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2023年4月号

NO. 257

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

## 東京湾の野鳥の楽園、<sup>やつひがた</sup>谷津干潟

大正時代末以来の東京湾の埋め立て、都市化の中にかろうじて残った習志野の谷津干潟。それでも約40ヘクタール。一周3,500mあります。満潮時には海水を一面にたたえ、干潮時には、カニが穴から出て餌を求め、浅瀬では小魚が銀鱗を光らせます。

この水辺は、野鳥の天国です。野鳥は、年間約120種も確認されています。今は、北へ帰る渡り鳥の、旅立ちが始まっています。

今回は、ほぼ全面ガラス張りの自然観察センターでレンジャーの20分ほど解説を聴いた後、レンジャーの指導で双眼鏡（借用）を持って野鳥観察をするグループと、干潟全体を眺めながら自分たちで半周歩くグループに分かれ、最後に合流します。当日選択してください。それぞれ新しい発見をしましょう。



東京湾とは、潮の干満に1時間半の遅れがある干潟

### 251回WHOウォーキングのご案内

期日：2023年4月22日(第4土曜日)

コース：JR 総武線・津田沼駅南口7番ー〈バス〉  
ー津田沼高校前ー谷津干潟(谷津川橋・谷津干潟自然観察センター・レクチャー・【昼食】・【グループ分け】観察・散策)ー習志野市営バラ園【合流】ー読売巨人軍発祥の地ー京成線・谷津駅【解散】

集合・出発：JR 総武線・津田沼駅改札南口10:00  
(バスの時間があります。時間厳守)

受付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を書いてください。これまで書いていない方もお願いします。

解散：京成線・谷津駅 14:30頃

携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当(食堂はありますが当日は座れません。必ず持参してください) 飲料、あれば双眼鏡も。

参加費：300円、交通費、施設利用代200円は各自負担。

初参加の方は、名札代200円(必ず装着を)。野鳥観察グループ参加費300円(双

眼鏡借用代含む) レクチャー前後の申し込み時にセンターにお払いください。

## みどころ

**ラムサール条約:**正式な名称の日本語訳は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。1971年にイラン・ラムサールで批准されたため通称で呼ばれることが多い。生物多様性保全に関する地球規模の条約としては最も早く採択された。日本は1980(昭和55)年に加入した。現在170カ国以上が加入。

**習志野市営バラ園:**1934(昭和9)年に京成電鉄が始めた谷津遊園のバラ園として生まれた。遊園地は1963(昭和63)年に閉園となったが、バラ園だけは残してとの市民の声に答えて習志野市営となった。13,000平方メートルの敷地に約800種、7,500株が競う。ミスターローズと言われた世界的育種家、鈴木省三氏の監修。今回は、開花期より早いいため入園料100円。

**干潮・満潮:**周囲が干拓された谷津干潟は2本の水路で東京湾に通じ潮の満ち引きが行なわれる。3月22日の干潟の満潮は6時58分と20時12分、干潮は1時26分と13時43分。いずれも晴海の潮汐時間を標準に1.5時間遅らせた時刻を記載。

**読売巨人軍発祥の地:**1934(昭和9)年、ベーブルース、ゲーリックらを主力とした、米国大リーグのプロ野球選抜軍の来日した際、急遽、東京六大学出身者の花形選手を集めて日本初の職業野球チーム「読売巨人軍」が結成された。そのチームが谷津遊園球場で、練習を行った記念碑がある。選手には、三原脩(早大卒)、水原茂(慶大卒)、荻田久徳(法大卒)らがいた。

(吉田明弘)